

令和6年度 第2回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年11月22日（金） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席委員 金原 圭吾、池谷 定康、安間 忠雄、久保田 智彦、松澤 久仁美、行森 瑞恵、田口 美貴子
- 4 欠席委員 高須 博、島田 篤志
- 5 オブザーバー 野嶋 京登（富塚協働センター主任：コミュニティ担当）
- 6 学 校 中津川 貴一（校長）、廣野 幸恵（教頭）、深田 貴代（教務主任）、榊原 大輔（1年主任）、村松 郁枝（2年主任）、西村 脩平（3年主任）、林 美奈子（ほたる主任）、藤原 啓子（CS担当教職員）、岩邊 三幸（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録制作者 CSディレクター 岩邊 三幸
- 9 議長の選出

田口委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

（1）いじめ防止対策について

- ① 現状と取り組みについて
- ② 地域家庭の連携について

（2）地域クラブについての情報交換

（3）今後の富中コミスクについて（グループ討議）

- ① 成果と課題（今年度のコミスク活動の確認、今後の展望）
- ② TS活動（TS発表会の感想も交えて）

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）いじめ防止対策について（○現状と取り組み、◎地域家庭の連携）

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づきいじめ防止対策について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- 最近はいじめのやり方が狡猾になってきているように思う。大人の目をかいくぐるようないじめが一定数あるのではないか。そういったところに目を光らせるのも大事ではないか。（金原委員）
⇒インターネット関連でいじめに関する話があがってくる。実物を見られるわけではないが、親も知らないところで行われている。（校長）
- 携帯電話で子どもが何をしているかということにおいて、親は管理が行き届かない場合がある。（松澤委員）
- 富中独自の生活アンケートの中で、ある程度子供の生活の様子がわかるのであれば、そこをいじめ対策にも活用していただきたい。（久保田委員）

- ◎ LINEやSNS等でたくさんの情報が飛び交っており、子どもはそれを全て自分の都合のよいように捉える。プライバシーの問題もあるが、中学生は人格形成において未熟と言えるので、活用の仕方について適宜管理することも必要ではないか。(金原委員)
- ◎ いじめに関して言えば、学校だけではなく、親の家庭での子どもへの関わり方が重要となってくる。昨今のXやSNS関連の情報について、大人自身が最新のものについて学ぶ機会も必要ではないか。(池谷委員)
⇒年間計画の中で情報モラル講座を6月に実施しており、保護者にも参加してもらっている。(校長)
- ◎ いじめに関して、学校内だけで解決するのが難しい場合は、運営協議会、コミスクを通して地域と連携していく方法もあるかと思う。(金原委員)
- ◎ いじめの認知、発見の部分で、アンケートを年間何回かされており、そこでわかる部分もあると思うが、今後、子供が直接 SOS を発信するツールとして、ネットワークを活用し何らかの形（メールのような）で随時受け入れられるような体制をつくっていくのもいいのではないか。(池谷委員)

(2) 地域クラブについての情報交換

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき地域クラブ活動について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 既存のクラブチームはそのまま地域クラブとしての活用につながるかと思うが、新たに立ち上げようとなると誰が指導者となっていくのか、又、人材を確保できるのか、活動場所の問題等、現状を考えるとなかなか厳しいのではないのでしょうか。(池谷委員)
- ・ 地域クラブを保護者が気軽に作られるというものでもない。運動部に関して言えば、運営していくにあたって指導者が資格を有することが前提となる。(金原委員)
- ・ 文化部においては、佐鳴湖で文化部（園芸部や写真部）を作ろうとしている団体があるので、今後地域クラブとして活用できるかもしれない。(金原委員)
- ・ 地域クラブ移行というのは、教職員の負担軽減と地域の人材活用の面があると思うが、そういった意味で、地域で社会人クラブチームのOBがいればご協力頂き、教職員OBの方も上手く活用することで、先生的な目線や視点もある程度入ってこられるのではないか。(池谷委員)
- ・ 部活のいいところは、移動せず学校内で教えて頂いて活動できることであり、中学生の時に体を動かしたり、運動が得意でなくても文化部に入ったりと、少しでも打ち込めるものがあることである。平日は学校で先生に見ていただき、土日はクラブチームでやり、指導においては学校と連携しながらやるという形が一番理想的でないか。(田口委員)
⇒浜松市としてこのような方向性を持って、各学校が検討している現状をご理解いただき、富塚の地域の中で地域クラブというものが少しでも形づくられていくよう、皆さんにもご協力いただきたい。(校長)

(3) 今後の富中コミスクについて

議長の指示により、今後の富中コミスクについて（○成果と課題、◎TS活動）、学校職員と委員とでグループ別協議を行い、グループ代表者が以下のように発表した。

【Aグループ：榊原、林、金原委員、安間委員、田口委員】

- 成果としては、富塚中学校とコミュニティ・スクールの足並みが揃っていることがあげられる。第一回運営協議会で協議した意見が、今回の「富中でよかった」一言カード募集に反映されており、大きな成果と言える。
- 学校のカリキュラム・マネジメントに協議会の意見が反映されている。
- 今後の大きな方向性として、進路の部分でコミスク面接以外に、その先の高校、就職等の一歩踏み込んだところへの進路指導に関わることはできないだろうか。
- ◎ PowerPoint の技術は上がっているが、何を伝えるかということを大事にしてほしい。
- ◎ プレゼンターに少し元気がないように思えた。情熱をもって伝えてほしい。

【Bグループ：村松、深田、池谷委員、松澤委員】

- 学校生活において、書写やコミスク面接等で当たり前のように地域の方々が関わって下さり、有難く感じているが、逆に地域の方々は子供の役に立つことが生きがいになっており、誰かと関わることで地域の方にも良い面がある。
- 富塚地区はボランティア募集の数も多く、特に協働センターのボランティアに関して言えば、中学卒業後も続いており、高校、大学、また大人になってから今度は自分の子供を連れて来るといようなサイクルに今後なっていくといい。
- パパママ体験について言えば、ボランティアが高齢化してきており、次の担い手がないと聞いている。新しい人材を口コミ等で取り込むことも必要になってくるのではないかな。
- ◎ 以前はTS発表会でまとめたものをインタビューした先に見せに行ったこともあったので、そういうことが次につながっていくのではないかな。
- ◎ TS発表会に親を呼びたがらない子どももいると聞く。学校で発表する前に、家庭で一度練習がてら発表し、コメントをもらってすることで親も関わるきっかけになるのではないかな。

【Cグループ：西村、藤原、久保田委員、行森委員】

- コミスクが地域の今を知ることができる場となっており、学校がたくさんの地域の方に支えられていると感じる。
- ◎ TS発表会でほとんどの生徒がタブレットを使用しており技術面で上がっていることは良いが、悪い点もあり、作りながらすぐに削除できやり直しができるので、なかなか纏まらず時間がかかってしまう。
- ◎ 身近なテーマで地域に特化して、最後に自分の意見をまとめ発表することができていたのは良い成果と言えるが、中学生特有のシャイな部分があり人前でうまく話せない等の問題がある。日ごろの授業や関わりの中で改善していければと思う。

その他の連絡事項

- ・ 学校支援コーディネーター研修に参加した行森委員より、研修内容について報告があった。
- ・ 司会から、学校運営協議会自己評価表の作成依頼について説明があった。また、次回会議は令和7年2月19日（水）午後2時30分から2階会議室について開催する旨の報告があった。